

平成27年度 病害虫防除技術情報 第2号

平成27年4月2日
大分県農林水産研究指導センター
農業研究部

麦類の赤かび病対策について

赤かび病は出穂後に降雨が続くと発生に好適な条件となり、多発すると収量、品質が著しく低下します。赤かび病発生の好適条件になった場合には、良品質麦を生産するために2回散布を行って下さい。

- (1) 小麦と裸麦では開花最盛期から10日間程度の間が最も感染しやすく、二条大麦では葯が出始める時期に感染しやすいため、この間に降雨が続き気温が高いと多発しやすくなります。
- (2) 3月19日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」によると気温が平年より高い確率は60%となっています。降水量は平年並と考えられますが、降雨には十分注意して適期防除を心がけましょう。

防除上注意すべき事項

- (1) 小麦と裸麦では、開花最盛期とその7～10日後の2回散布を基本とする。開花最盛期の目安は、小麦は出穂7～10日後、裸麦は出穂5～7日後である（気温が平年並の場合）。
二条大麦では葯の出始めとその7日後の2回散布を基本とする。葯の出始めの目安は出穂12～14日後（穂揃い期10日後）である（気温が平年並の場合）。
- (2) 防除適期が短いので、雨が降り続く場合は合間を見て散布する。一般に水和剤あるいは乳剤の方が、粉剤よりも防除効果が高い。
- (3) 農林水産研究指導センター水田農業グループによる麦類の品種ごとの本年予想出穂期及び平年出穂期は下表に示すとおりである。
- (4) 2回目の散布が防除適期内に行えなかった場合でも、感染しやすい条件に該当する圃場では1回目防除の20日後くらいまでに2回目防除を行えば防除効果が期待できる。ただし、薬剤の収穫前使用日数に注意が必要である。

本年予想出穂期及び平年出穂期（宇佐市11月20日播種）

麦種	品 種	本年予想出穂期	平年出穂期	平年登熟期間
裸麦	トヨノカゼ	4月6日	4月7日	出穂から49日
二条大麦	ニシノホシ	4月7日	4月8日	出穂から44日
小麦	チクゴイズミ	4月11日	4月13日	出穂から51日
小麦	ニシノカオリ	4月12日	4月14日	出穂から49日

平成27年3月25日現在

- (5) 防除薬剤は、大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針を参照すること。
(ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita/>)

主要薬剤の麦種ごとの登録は以下のとおりである。薬剤の収穫前使用日数に十分注意する。

【散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル	1000～1500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	トップジンM水和剤				
	シルバキュアフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫3日前まで	3回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンM水和剤	1000～1500倍	60～150L/10a	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
	トップジンMゾル	1500倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
大麦	シルバキュアフロアブル	2000倍	60～150L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	1000～2000倍	60～150L/10a	収穫21日前まで	1回

【無人ヘリコプターによる散布】

作物名	農薬の名称	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数
小麦	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫7日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	8倍	800ml/10a	収穫7日前まで	3回以内
麦類 (小麦を除く)	トップジンMゾル	8倍	0.8L/10a	収穫21日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
大麦	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L/10a	収穫14日前まで	2回以内
	チルト乳剤25	8倍	800ml/10a	収穫21日前まで	1回

※チルト乳剤25は網斑病、黄斑病との同時防除に有効であるが、赤かび病単体の効果としてはやや劣る。